

【全訳】

臥薪嘗胆 — 薪に臥し、胆を嘗める

教室は真夏の熱気に満ちて息苦しかった。だが答案用紙が私の前に置かれた瞬間、冷たいものが血管を走り抜けた。周囲からは笑い声や安堵の叫びが上がり、誇らしげに答案を掲げる音が響く。だが私は身動きもできずに座り込み、赤い数字が突きつける冷たさは、冬の霜よりも厳しかった。季節の熱気は肌にししかかるのに、内側では血が凍りついていた。

友人が身を寄せてささやいた。「気にするなよ、次はうまくいくさ」。その言葉は優しかったが、かえって心を冷やした。慰めは癒しどころか、失敗の痛みをいっそう鋭くした。彼が傷を和らげようとすればするほど、心の痛みはいっそう燃え広がった。

そのとき、絶望の静けさを破るようにエンジンの轟きが聞こえた。飛行機が空をかすめ、私の目は窓の外へと引き寄せられた。そこには、天の高みにそびえる巨大な積乱雲があり、まるで龍が空へ昇るかのようであった。時とともに薄れるどころか、私をこれほどまでに強く揺り動かしたものはなかった。それは「臥薪嘗胆」——薪の上に寝て苦汁をなめるといふ古の言葉の想起であり、屈辱と困難に耐えてついに勝利を収めた越王・句踐の誓いであった。そして恥辱を力へと変えようとする者にとって、その教訓の重みは、どれほど強調してもしすぎることはないのである。

私が感じたのは失敗の冷たさではなく、自らの鼓動のほとばしる熱であった——そしてその熱は、揺るぎなく屈しないものであり、まさしく強さそのものの徴にほかならなかった。それは見過ごされるほど些細では決してなく、むしろあまりに重大であり、誠実さと重みを備えたいかなる魂も、この真実をどこにおいても強

調することを怠ってはならないほどのものだった。

【解答解説】

Q1. 下線部(1)

原文

Nothing, far from fading with time, stirred me more suddenly than the recollection of the ancient phrase “Gashin-shōtan” — to lie on firewood and taste bitter gall — that vow of Goujian who, enduring humiliation and hardship, rose at last to triumph, a lesson whose weight is hard to stress enough for anyone who seeks to turn disgrace into strength.

解答(和訳)

時とともに薄れるどころか、私をこれほどまでに強く揺り動かしたものはなかった。それは「臥薪嘗胆」——薪の上に寝て苦汁をなめるといふ古の言葉の想起であり、屈辱と困難に耐えてついに勝利を収めた越王・句踐の誓いであった。そして恥辱を力へと変えようとする者にとって、その教訓の重みは、どれほど強調してもしすぎることはないのだ。

解説

- Nothing … stirred me more … than …
 - 「～ほど私を動かしたものはない」という強調表現。Nothing を文頭に出して倒置。
- far from fading with time
 - 挿入句。「時とともに薄れるどころか」。
- the recollection of the ancient phrase “Gashin-shōtan”
 - 「臥薪嘗胆という古の言葉の想起」。

- that vow of Goujian who ... rose at last to triumph
 - *that vow* が先行詞、*who* 以下が句践の説明。
- a lesson whose weight is hard to stress enough ...
 - 「その教訓の重みは、強調してもしすぎることはない」。
 - *hard to stress enough* = 「いくら強調しても十分ではない」。

Q2. 下線部(2)

原文

It was not the cold of failure that I felt, but the surging heat of my own heartbeat — and that heat, steady and unyielding, was nothing less than the very sign of strength itself, not so slight that it could be overlooked, but so vital that nowhere must any soul with honesty and gravity fail to stress this truth.

解答(和訳)

私が感じたのは失敗の冷たさではなく、自らの鼓動のほとばしる熱であった——そしてその熱は、揺るぎなく屈しないものであり、まさしく強さそのものの徴にほかならなかった。それは見過ごされるほど些細では決してなく、むしろあまりに重大であり、誠実さと重みを備えたいかなる魂も、この真実をどこにおいても強調することを怠ってはならないほどのものだった。

解説

- It was not ... that I felt, but ...
 - 強調構文。「私が感じたのは～ではなく、…であった」。

- steady and unyielding
 - 挿入的修飾語句。「揺るぎなく屈しない」。
- was nothing less than the very sign of strength itself
 - *nothing less than* = 「まさしく～にほかならない」。
 - *the very ... itself* で強意を重ねる。
- not so slight that it could be overlooked
 - 「見過ごされるほど些細ではない」。*not so ... that ...* 構文。
- but so vital that ...
 - 「むしろ～するほど重要である」。対比的強調。
- nowhere must any soul ... fail to stress this truth
 - *nowhere* を文頭に置いた倒置。「どこにおいても～してはならない」。
 - *fail to stress* は否定的表現で、逆説的に「必ず強調すべきだ」と意味を強めている。

Q3. 自由英作文

問題

Do you agree with the proverb “Gashin-shōtan” as a guiding principle for students?

Write an essay of about 60–80 words.
解答例(約 75 語)

I agree with the proverb “Gashin-shōtan.” The writer argues that even bitter failure can be turned into strength if we endure it without forgetting. For students, this idea is important because we often face

disappointing exam results. Last year, I received a poor score and felt humiliated, but I kept studying hard with that pain in mind. Later I achieved a much higher grade. Endurance, though painful, creates future success.

解説

- Step 1: Summarize the writer's argument
 - 「失敗や苦さも、耐え忍べば力になる」。本文要旨を一文で表す。
- Step 2: State your opinion
 - 「I agree / I disagree」を明確に提示。
- Step 3: Give a reason/example
 - 具体例(自分の体験、友人の話、歴史上の人物)を用いると説得力が増す。
- 採点基準
 - 内容 (0-4):要旨・意見・理由がそろっているか。
 - 構成 (0-3):序論・本論・結論の流れが明確か。
 - 英語表現 (0-3):語数、文法、語彙が基準を満たしているか。